



竹垣

日本の知恵、
プラスチックの知恵

魅せる結びで、強さを保つ

「この竹垣に竹立て掛けたのは」で始まる早口言葉はおなじみでも、竹垣自体を立てることは少なくなりました。風景の仕切りとも言われる竹垣は、石や煉瓦を積み上げた強靱な塀などとは違って、日本庭園や屋敷内の空間を区切る意匠のひとつでもあります。竹を隙間なく並べ、温泉の露天風呂などの目隠しにも使われたりしていますが、いずれも竹をつなぐ棕櫚繩しんじょうの結び方で、その美しさと強度が決まるのだとか。三次元網目構造のフェノール樹脂をガラス繊維などで複合強化したフェノール樹脂成形材料。美しく強固な竹垣のように、その堅牢な樹脂構造が生み出す耐熱性、優れた機能特性といった特長を生かし、自動車分野における金属代替プラスチックとして用途を広げています。



プラスチックのパイオニア

フェノールの夢、100年

男たちの友情が育んだ未来の夢、プラスチック

1907年(明治40)に、米国のベークランド博士によって発明されたフェノール樹脂は、日本国内では、その製造が1911年(明治44)に三共合資会社の工場が始まったのは、三共合資会社の創始者である塩原又策と、高峰譲吉との親交があり、また高峰とベークランド博士が友人という友情が取り結んだ縁。100年の時を超え、“プラスチックのパイオニア”としての住友ベークライトの起業精神に受け継がれています。

プラスチックのパイオニア